

第11回 ライトダウン甲府バレー2009

～住吉公民館でのイベントの様～

山梨自然エネルギー発電株式会社 大友哲



過度な照明を消して、きれいな星空が見られる環境を取り戻そうというイベント『ライトダウン甲府バレー』。その第11回目が、2009年10月17日、山梨県立科学館をメイン会場に開かれました。

県内の約1200カ所で20:00～21:00の間、消灯が実施され、甲府南中学校隣の住吉公民館でも星に関するイベントを行いました。

長さ約40cmの望遠鏡を手づくり



400年前

にガリレオが作ったように、望遠鏡を手作り。紙に黒いシートを貼り、直径5cm程のレンズと直径1cm弱のレンズを組み合わせて、30分ほどで望遠鏡が出来上がり、雲間からぽつりと現れた木星を覗くことができました。



木星の衛星も見えた！ 天体観察会

次に、外に出て、大友が持参した口径32cmの大砲のような反射望遠鏡の周りに集合。



反射望遠鏡を覗くと、木星と、その周りに一列に並ぶ3つの衛星がきれいに見えました。



ラジオ(FM甲府、FM富士)に大友が電話で出演し、住吉公民館での今年のイベントについて語る場面も。

スライド上映 ～天体、光害、太陽光発電

清里大友天文台で撮影した天体写真などを使い、色々な星の配置や成り立ち、星を発見したエピソードを紹介。また、照明機器のデザインによって星の見え方に違いがあることや、甲府と清里での空の明るさをスライドで比べて、光害の実際について語りました。



さらに、昼間だけ発電する太陽光の発電パネルを住吉公民館に取り付けていることが、光害を減らすことに役立つことを説明しました。